

## 山内孝郎先生を送るにあたって

札幌大学女子短期大学部部長 真瀬 勝 康

本学教授山内孝郎先生は、平成9年3月末日をもって定年を迎えられ、ご退職になります。先生は、大正15年5月22日に東京都小石川にお生まれになり、苛烈な太平洋戦争さなかの昭和18年海軍兵学校にご入学され、終戦の年、昭和20年に同兵学校をご卒業されました。その後、同22年4月、東京大学文学部哲学科にご入学、同26年に同校をご卒業なさいました。さらに哲学のご研究を深めるために、同年4月に同大学文学部大学院哲学専修に進学されました。先生の青春・思想形成の時期は、戦争から敗戦にかけての価値観が大転換する時代に遭遇しました。先生は、その中で戦後の混乱期を主体的に切り開く努力を重ねられました。

先生は大学ご卒業後、『西洋人名辞典』、『日本哲学思想全書』の編集にたずさわれ、出版ジャーナリズムの実務を経験されました。この御経験はその後、理論誌『現代の理論』創刊にさいして大きな力となりました。昭和32年9月から同59年3月まで東京都立紅葉川高等学校定時制社会科教諭として勤労青年の教育にご尽力されました。若き哲学教師としての先生は、権威にとらわれない柔軟な発想とご円満なお人柄もあいまって、多くの勤労青年をひきつけ、有為な人材を社会におくりだされました。

定時制教諭のかたわら先生は、1960年前後のわが国マルクス主義哲学の創造的発展のためにイタリア・マルクス主義を紹介する仕事をなさりつつ、「現代マルクス主義」派として論陣をはりました。先生は東京唯物論研究会事務局長の立場から、党派的利益で哲学研究を思想的に逼塞させようとする勢力に対して、自由な哲学研究の旗を守る戦いの先頭にたたれました。また、昭和39年からは盟友安東仁兵衛氏とともに、第2次『現代の理論』創刊に奔走されました。先生と安東氏とが編集された理論誌『現代の理論』は、戦後革新運動の歴史に大きな足跡を残しました。先生たちの成果としては梅本克巳、丸山真男、佐藤昇著『現代日本の革新思想』があげられます。本書は、当時の青年学生に多大の思想的影響を与えたものとして私の学生時代の思い出にもなっております。

先生を札幌大学女子短期大学部経営学科秘書専攻にお迎えしたのは、昭和59年4月ですが、爾来13年間、女子短期大学部のみならず大学全体の教育・研究・行政に大きな貢献をなされました。先生は着任まもない、同61年4月から札幌大学女子短期大学部経営学科長として開設間もない同経営学科の運営を指導され、短期大学としては北日本唯一の経営学科を名実ともに発展させました。さらに同62年10月より2期にわたり札幌大学図書館長として本道随一の図書館の整備・充実にご尽力するとともに、札幌大学の運営にも大きな力をふるわれ、大学運営の正常化にご尽力されました。また一昨年10月からは札幌大学女子短期大学部部長として、国文学科および文化学科を基盤にした新学部（文化学部）の設置にともなう短期大学部の再編成にご苦勞され、新生短期大学部創りに力を注いでこられました。このような学内行政のご多忙にもかかわらず、先生は、特に深い学識と指導力をもって未熟な学生の指導に力を注ぎ、多数の卒業生をビジネス社会へおくりだされました。

このたび先生のご退職に対して、私ども札幌大学女子短期大学部教員一同は、長年にわたる先生の本学に対する多大のご尽力に深く感謝するとともに、今後の先生のご研究の進展とご健康とご多幸を心より祈念いたします。